

社会資本整備総合交付金事業  
一般国道168号 小平尾こびらおバイパス  
奈良県（道路建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料



## 事業評価項目一覧表

<b>事業名</b>	社会資本整備総合交付金事業	<b>事業主体</b>	奈良県
<b>河川・道路名等</b>	一般国道168号	<b>事業箇所</b>	小平尾バイパス
<b>評価項目及び評価内容</b>			
<b>事業の目的及び必要性</b>			
<input type="checkbox"/> <b>目的</b> ・交通混雑の緩和、交通安全性の向上、地域の活性化、救急救命活動の支援。			
<input type="checkbox"/> <b>必要性</b> ・現道区間の交通量は増加傾向、第二阪奈有料道路へのアクセス向上と南北方向の交通混雑の緩和および円滑かつ安定した交通を確保。現道および生活道路の交通安全性の向上が期待される。地域の活性化が期待される。救急救命活動を支援する道路である。 (資料 p. 5～11)			
<b>事業策定の経緯</b>			
<input type="checkbox"/> <b>当時の状況</b> ・交通量が多く、交通混雑が発生している。当工区の南北で4車線化が完了し、当工区でも4車線化改良を行う必要がある。			
<input type="checkbox"/> <b>着手までの経緯</b> 平成8年に都市計画決定 (資料 p. 8)			
<b>事業の効果(費用対効果や施策的な効果など)</b>			
<input type="checkbox"/> <b>計画時の効果</b> ・ B / C = 2. 1 <input type="checkbox"/> <b>現時点の効果</b> ・ B / C = 2. 2 (資料 p. 12)			
<b>事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など)</b>			
<input type="checkbox"/> <b>進捗状況</b> ・事業進捗率：28%			
<input type="checkbox"/> <b>執行の遅延及び原因</b> ・執行の遅延は発生していない (資料 p. 14)			
<b>事業進捗の見込み</b>			
<input type="checkbox"/> <b>進捗の対策</b> ・用地買収率 55% (平成28年10月末時点)			
<input type="checkbox"/> <b>進捗の見込み</b> ・引き続き1工区の用地買収を推進し、来年度より2工区の用地買収に着手する。 (資料 p. 14)			
<b>事業の対策</b>			
平成30年代半ばの事業完了を目標に事業推進に努める。 (資料 p. 16)			
<b>その他</b>			
<input type="checkbox"/> <b>関係機関等の意向</b> 生駒市都市計画マスタープランにおいて都市活動の促進を図るため、南北方向の道路ネットワークの強化が位置づけ。			
<input type="checkbox"/> <b>関連事業の有無</b> (資料 p. 13)			

平成28年度 第1回 奈良県公共事業評価監視委員会

一般国道168号  
こびらお  
小平尾バイパス

平成28年11月

奈良県県土マネジメント部道路建設課

# 目 次

1. 路線の状況
2. 事業の概要
3. 事業の必要性等に関する視点
  - 1) 事業を巡る社会情勢等の変化
  - 2) 事業の整備効果
  - 3) 事業の投資効果
  - 4) 地域における計画等
4. 事業の進捗の見込みの視点
5. コスト縮減や代替案立案等の可能性及び事業完了後の  
良好な公共サービス提供の視点
6. 対応方針(案)

# 1. 路線の状況(県内の一般国道168号)



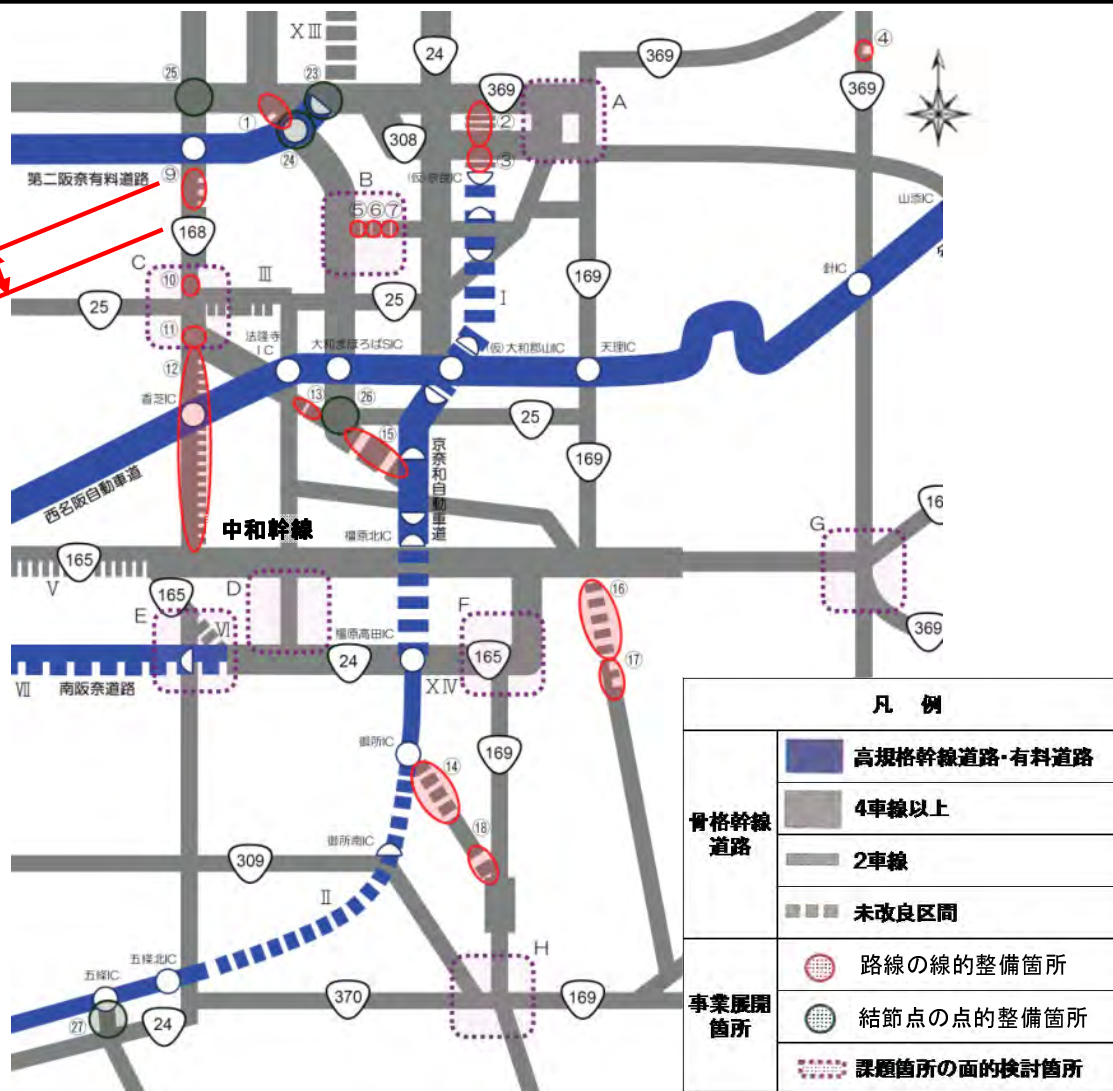
- 一般国道168号は、和歌山県新宮市を起点とし、大阪府枚方市に至る延長約180km(奈良県域約122km)の主要幹線道路。
- 奈良県域は全線が第1次緊急輸送道路に指定されている。
- 北・中和地域においては、第二阪奈道路や西名阪自動車道、中和幹線、南阪奈道路など東西交流軸と接続する道路であり、日常生活や産業活動を支えるうえで欠くことの出来ない道路。

# 1. 路線の状況(骨格幹線道路ネットワーク)

- 一般国道168号小平尾バイパスは、奈良県北西部に位置する南北幹線道路であり、延長約1.5kmの道路整備事業である。
- 本道路は、第二阪奈有料道路、一般国道25号を繋ぐ道路であり、奈良県道路整備基本計画(平成26年7月)において、骨格幹線道路ネットワークにおける路線の線的整備箇所として重点的な整備を推進する路線に位置づけられている。

骨格幹線ネットワーク  
(大和平野部)

一般国道168号  
小平尾バイパス  
L=1.5km



※各路線については、事業中箇所の事業進捗を見込んだ概ね10年後の姿を表記。  
※県以外が事業主体となる路線のうち、事業方針が明らかにされていない区間については、点線で表記。

# 1. 路線の状況(周辺の状況)

■小平尾バイパスに隣接する一分バイパス(平成19年供用)と上庄バイパス(平成26年供用)が全線供用済みで、真ん中に位置する小平尾バイパスの整備が残っている状況。

## ◆事業区間位置図

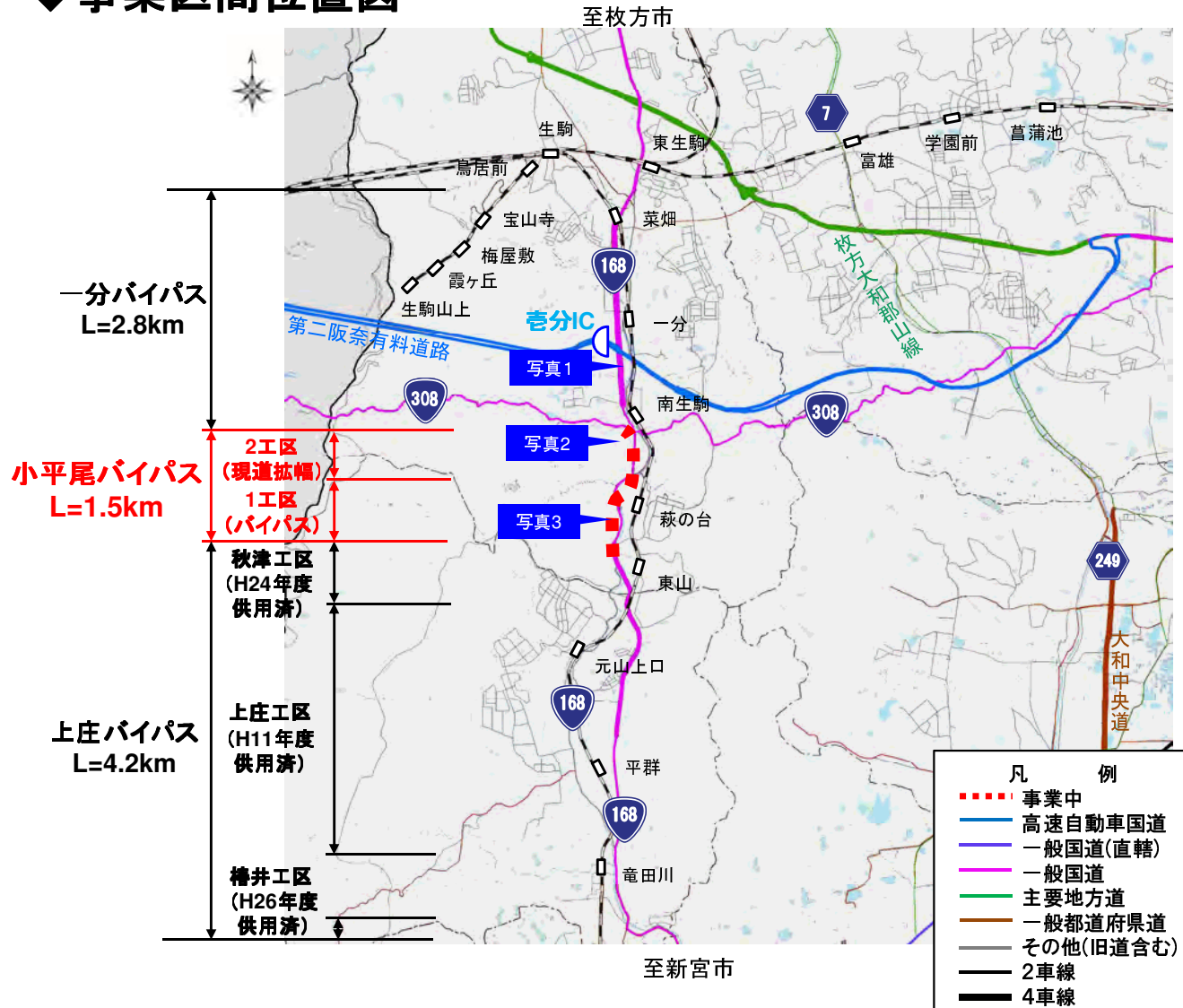


写真1 一分バイパス(H28.10)



写真2 現道【2工区(現道拡幅区間)】  
(H28.10)



写真3 現道【1工区(バイパス区間)】  
(H28.10)



# 2. 事業の概要

## ◆事業の目的

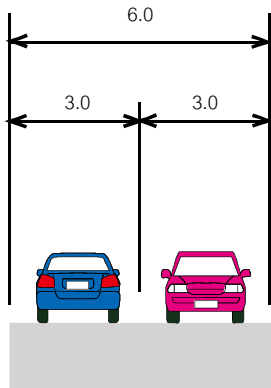
- ・交通混雑の緩和
- ・交通安全性の向上
- ・地域の活性化
- ・救急救命活動の支援

## ◆事業概要、進捗状況

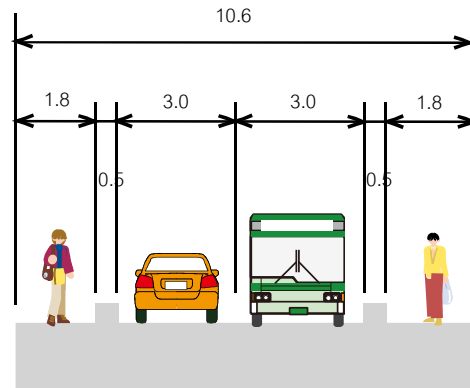
路線名	一般国道168号小平尾バイパス
事業区間	奈良県生駒市小平尾町～奈良県生駒市小瀬町
事業延長	1.5km
構造規格	第4種第1級
設計速度	60km/h
計画交通量	12,900～24,300台/日
車線数	4車線
道路幅員	23.0m
事業費	全体事業費 約51億円
事業の経緯	平成8年 都市計画決定 平成19年度 事業化

## ◆標準断面図

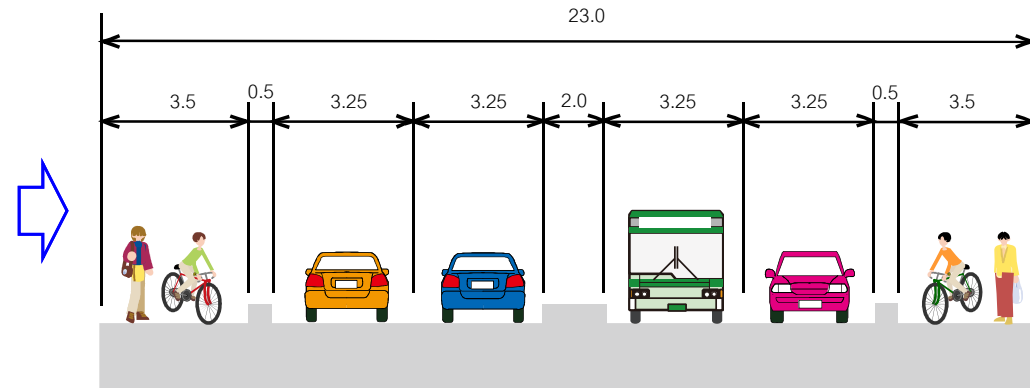
【現況:1工区(バイパス)】



【現況:2工区(現道拡幅)】



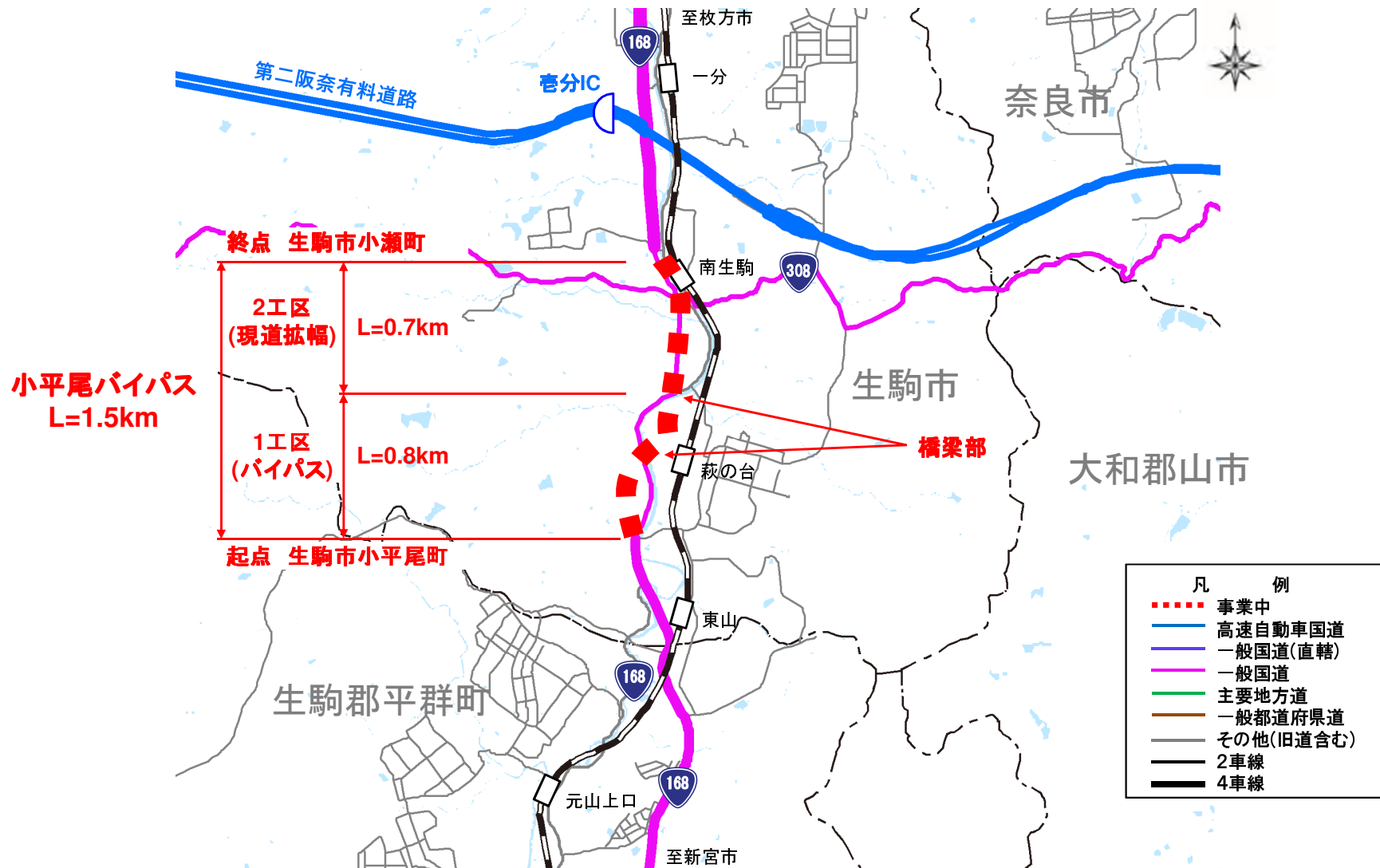
【整備後】



## 2. 事業の概要(計画図)

■小平尾バイパスは、生駒市小平尾町から小瀬町に至る延長約1.5kmの道路(現道拡幅0.7km、バイパス 0.8km)。

### ◆事業区間計画図

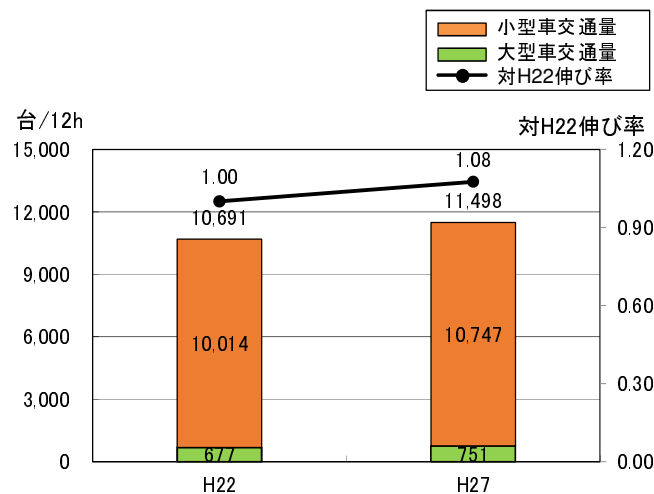
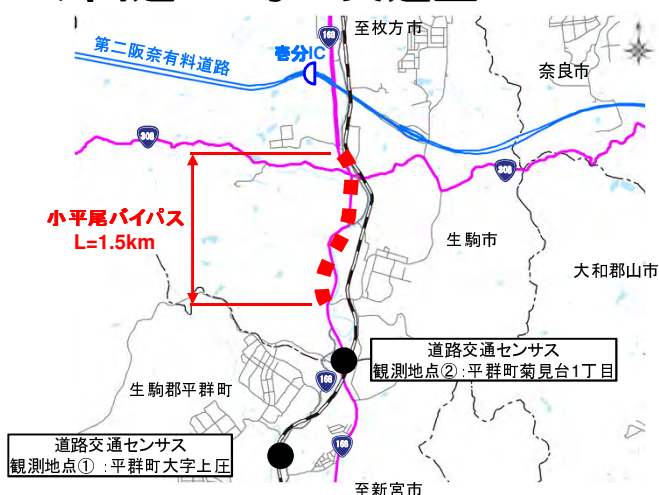


# 3. 事業の必要性等に関する視点

## 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 国道168号の交通量は、H26に上庄バイパスの全線供用により増加傾向。
- 奈良県の人口が減少傾向(対H22伸び率0.97)にある中、生駒市は横ばい(対H22伸び率1.00)。
- 生駒市の自動車保有台数についても、横ばい(対H22伸び率0.99)。

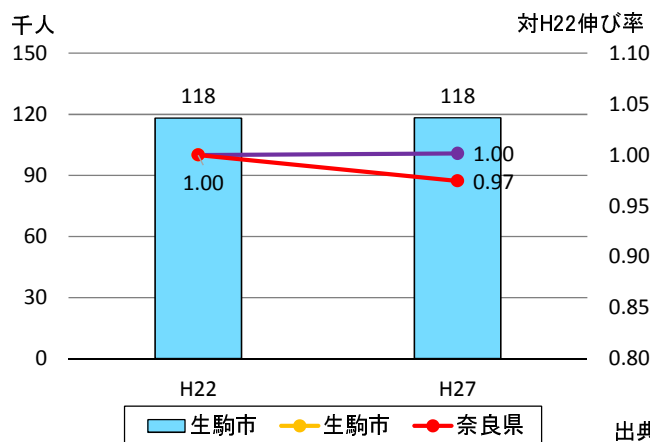
### ◆ 国道168号の交通量



※交通量は、「観測地点①生駒郡平群町大字上庄」と「観測地点②平群町菊見台1丁目」を合計したもの。  
 ※観測地点②の上庄バイパスは、平成11年度開通。

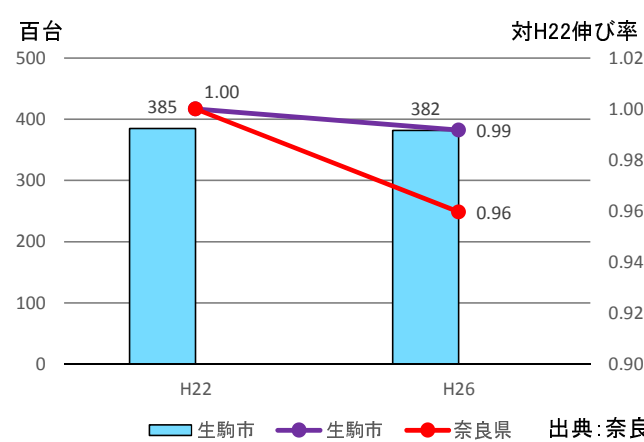
出典: H22は道路交通センサス。  
 H27は道路交通センサス観測地点における交通量調査結果(平成27年度)。

### ◆ 生駒市の人口



出典: 国勢調査

### ◆ 生駒市の自動車保有台数



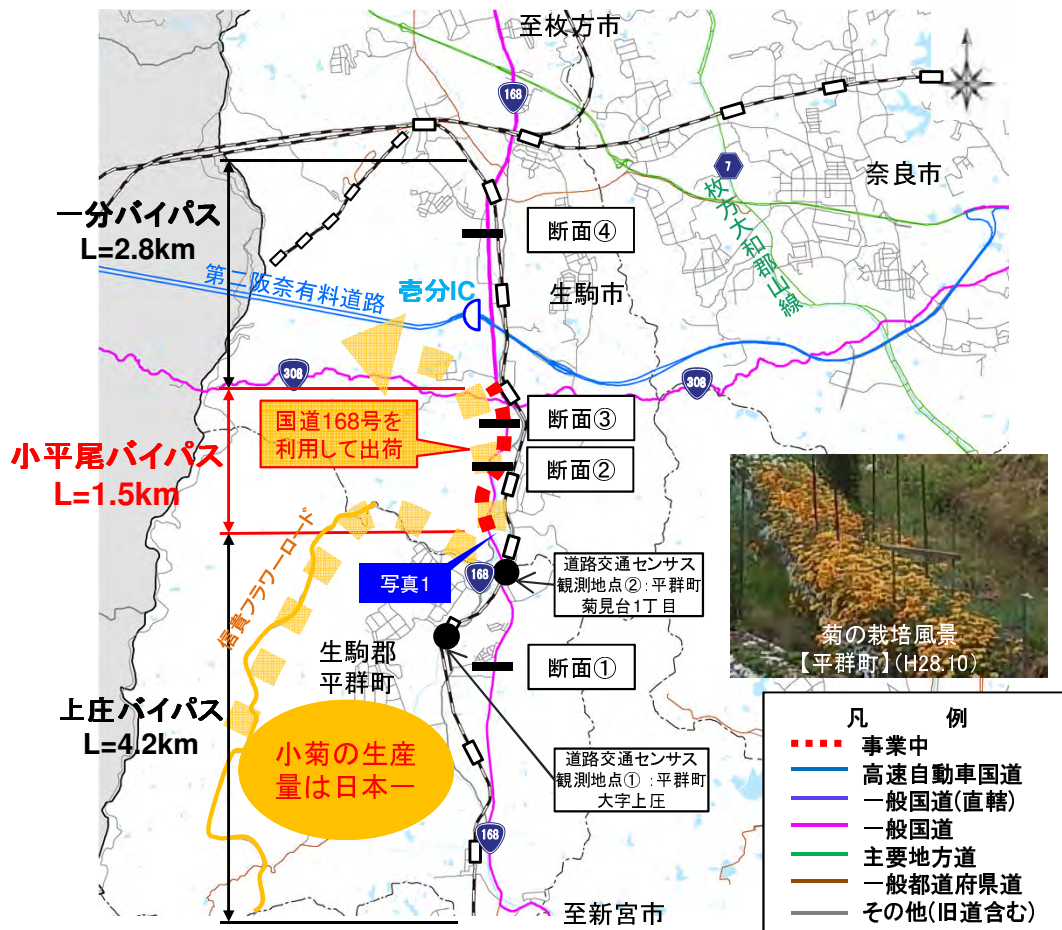
出典: 奈良県統計年鑑

# 3. 事業の必要性等に関する視点

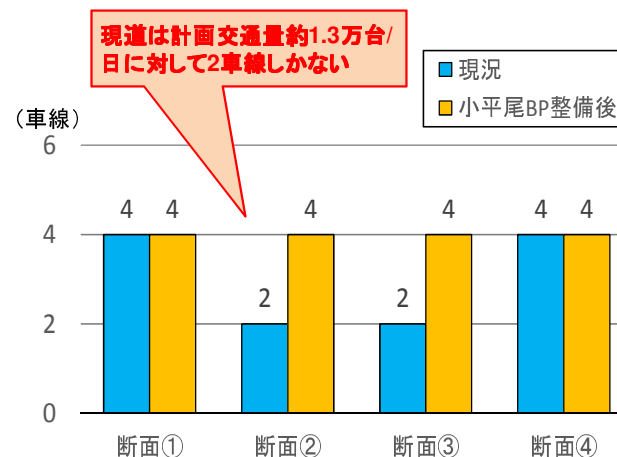
## 2) 事業の整備効果【交通混雑の緩和】

- 国道168号(生駒市周辺)の区間は、小平尾バイパス区間を除き、4車線として全線供用済み。当該道路のみ2車線として残っているため、大型車どうしのすれ違い時など、スムーズな走行に支障。また、2工区の現道拡幅区間が主要渋滞箇所として公表。
- 全国で有名な「平群の小菊」を大阪の生花市場に出荷するには、主に国道168号を利用。
- 当該道路の整備により、第二阪奈有料道路へのアクセス、南北方向の交通混雑の緩和および円滑かつ安定した交通の確保が期待。

### ◆ 周辺道路網の現状



### ◆ 国道168号(生駒市周辺)の交通状況と車線数



菊の出荷風景  
【信貴フラワーロード】(H28.10)



写真1 現道国道168号  
(H28.10)

# 3. 事業の必要性等に関する視点

## 2) 事業の整備効果【交通安全性の向上】

- 小平尾バイパスの現道は、道路幅員が狭く、また歩道が狭いため、歩行者の通行は危険。死傷事故件数は57件(H22~H26)、事故率は140.8件/億台キロ※。
- 通学路は生活道路を指定しているが、渋滞を避けるための抜け道利用の車が多いため、危険。
- 当該道路の整備により、幹線道路の円滑な交通が確保されることで、生活道路・通学路への迂回交通が転換でき、生活道路・通学路の交通安全向上が期待。

※一般国道の全国平均は81件/億台キロ

### ◆国道168号周辺の通学路

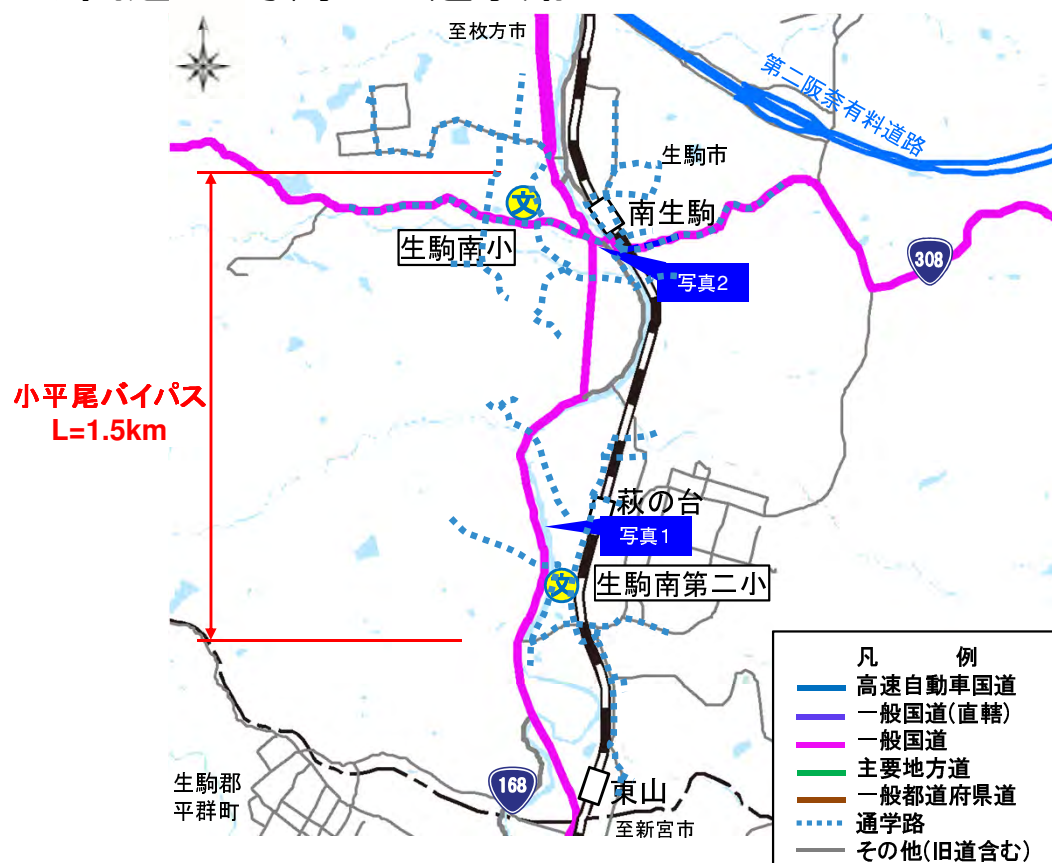


写真1 大型車の通行(H28.10)



写真2 自転車走行(H28.10)

### ◆生駒南小学校からの声



当校の児童が登下校時に利用する通学路は、歩道もなく、渋滞を避けるための抜け道として利用するクルマが多いため、非常に危険です。

また、地域の方の協力で、国道168号横断時の安全を確保していますが、下校時・休日なども、児童の安全が心配です。

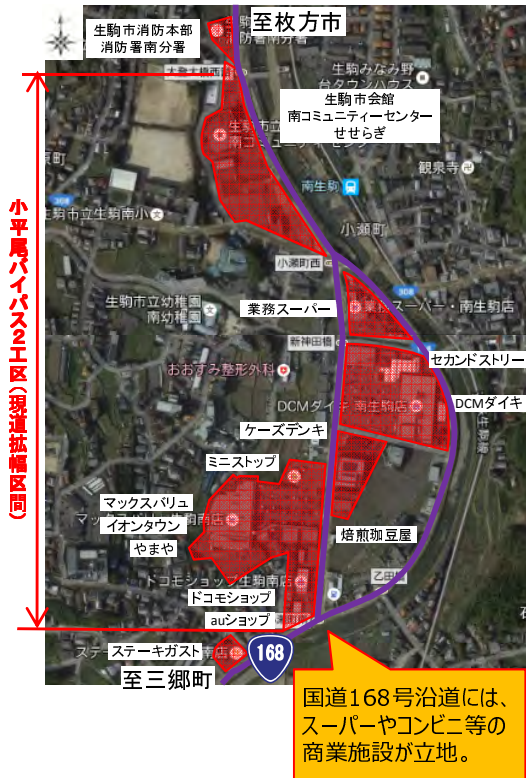
小平尾BPの整備によって、通学路の交通量が減少し、児童の安全性が高まることを期待しています。

# 3. 事業の必要性等に関する視点

## 2) 事業の整備効果【地域の活性化】

- 現道拡幅区間である南生駒駅周辺は、商業サービス施設が集積(14件)。また、生駒市都市計画マスタープランで「生駒市南部エリアの地域拠点」の位置付けがあり、地域の玄関口として魅力あるまちなみ形成を図っていくこととされている。
- 南生駒駅周辺は、南北を結ぶ国道168号に交通が集中し、渋滞が厳しく、活力の停滞が懸念されている状況。
- 当該道路の整備により、活気ある地域づくりに期待。

### ◆沿道の集客施設等



### ◆生駒市南部エリアの将来まちづくり方針図



### ◆南生駒駅周辺の拠点地区のまちづくり

- 【南生駒駅周辺の課題】
- ・ 南生駒駅周辺において、国道沿いの立地条件や竜田川等の地域資源を活かしつつ、南部地域の生活利便性や賑わいを高める生活支援機能の強化を図っていく必要があります。
- 【南部エリアの将来まちづくり方向】
- ・ 地域拠点等の南生駒駅周辺の拠点地区：商業サービス・生活利便施設等の賑わい機能の充実
- 出典:「生駒市都市計画マスタープランH23.2」より抜粋

### ◆生駒市役所からの声

南生駒駅周辺や国道168号沿いは、商業サービス施設が集積しています。しかし、南北を結ぶ国道168号に交通が集中しており、渋滞が厳しいです。また、活力の停滞も懸念されている状況です。

南生駒駅周辺は、現在、地域拠点としての機能強化を進めているところです。地域活性化のためにも、小平尾バイパスの整備を進めてほしいです。

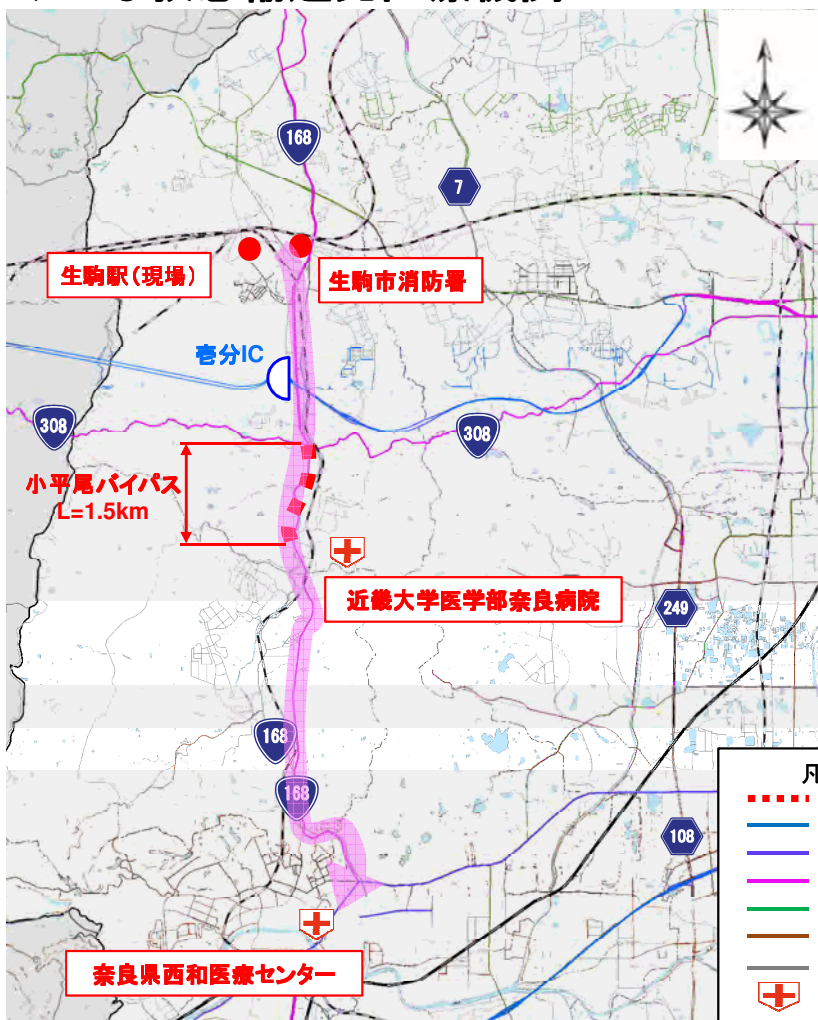
出典:生駒市役所ヒアリング結果(H28.10)

# 3. 事業の必要性等に関する視点

## 2) 事業の整備効果【救急救命活動の支援】

- 生駒市消防署では、年間の出動件数は約4,000件。年間の搬送件数は約400件あり、そのほとんどが国道168号を通過している。
- 小平尾バイパスの現道では、渋滞などにより救急搬送時において遅れ時間が発生する場合がある。
- 当該道路の整備により、救急搬送の円滑化向上に期待（一般車両では2.3分の時間短縮）。

### ◆主な救急輸送先医療機関



### ◆生駒市消防署救急搬送状況

【救急搬送状況】

出動件数	約4,000件/年
搬送件数	約400件/年

【搬送件数上位の医療機関】

医療機関名	搬送件数(件/年)
近畿大学医学部奈良病院	369件/年
奈良県西和医療センター	25件/年

出典：生駒市消防署ヒアリング結果（H28.10）

### ◆生駒市消防署からの声



生駒市からの救急搬送先は、主に近大奈良病院と西和医療センターです。

生駒市から近大奈良病院と西和医療センターへの搬送ルートは、国道168号を利用することは多いです。西和医療センターへは、ほぼ国道168号を利用しています。しかし、国道168号は渋滞が多く発生しており、渋滞により遅れ時間が発生する場合があります。

また、現在の国道168号の道路状況では、狭い幅員区間において、電柱やガードレール等に接触する危険を感じています。なお、国道169号は2車線で幅員が狭いため、対向車線から大型車両が来た場合、離合が困難です。

国道168号の道路拡幅による救急搬送の円滑化の向上に期待します。

# 3. 事業の必要性等に関する視点

## 3) 事業の投資効果

### ◆事業全体

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比(B/C)
	88.2億円	7.3億円	3.2億円	98.7億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	44.9億円		0.2億円	45.0億円	

(前回再評価時B/C=2.1)

### ■算出条件等

基準年	: 平成28年度
検討期間	: 50年間
現在価値算出のための社会的割引率	: 4%
交通量の推計時点	: 平成42年度
推計に用いた資料	: 平成17年度道路交通センサス
適用した費用便益分析	: 平成20年11月版マニュアル
事業費	: 45億円(現在価値)
維持管理費	: 839千円/km
作成主体	: 奈良県

### ◆残事業

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比(B/C)
	88.2億円	7.3億円	3.2億円	98.7億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	29.2億円		0.2億円	29.4億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。



# 3. 事業の必要性等に関する視点

## 4) 地域における計画等

### 事業の位置付け

○奈良県道路整備基本計画(平成26年7月)

骨格幹線道路ネットワークにおける路線の線的整備箇所として位置づけ重点的な整備を推進。

○生駒市都市計画マスタープラン(平成23年2月)

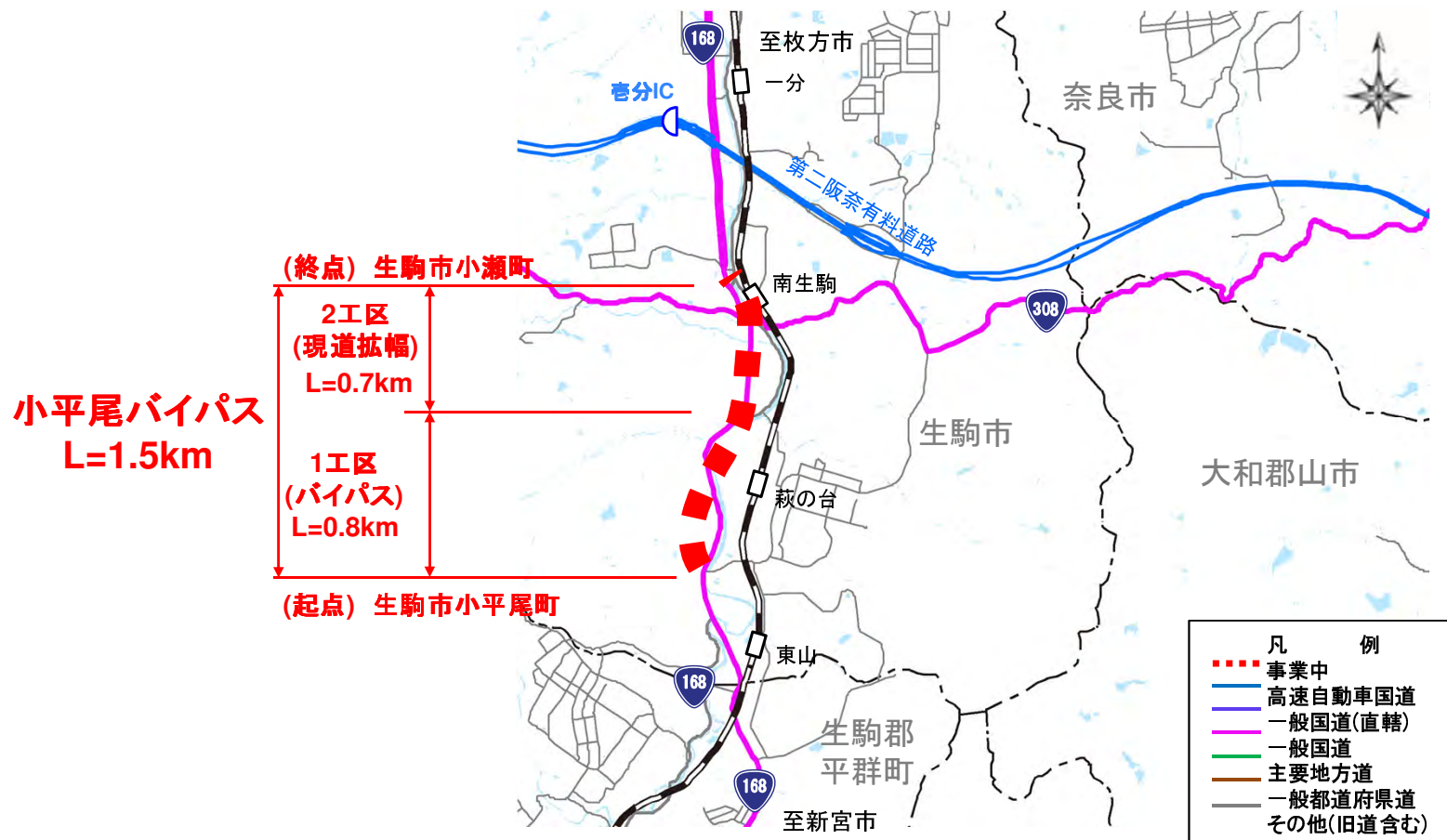
都市活動の促進を図るため、南北方向の道路ネットワークの強化を推進。

### 要望経緯

○生駒市長が「土木事務所管内市町村の協議会」で小平尾バイパスの早期供用を要望。

# 4. 事業の進捗の見込みの視点

- 道路事業の推進について概ね了解を得ていることから平成19年度より用地買収に着手し、平成27年度までに58件中25件の用地買収が完了している。
- 平成28年10月までの進捗は、事業進捗率が28%、用地買収率が55%（1工区72%、2工区13%）。
- 平成28年度も引き続き用地交渉を進め、1工区のバイパス区間を中心に用地買収が進展しており、現時点で、新たに1件の用地買収が完了し、今後も追加買収できる見込み。
- また、今年度より、地元協議が完了した2工区の用地測量および補償調査を実施しており、来年度から2工区の用地買収にも着手する予定。



# 5. コスト縮減や代替案立案等の可能性及び事業完了後の良好な公共サービス提供の視点

## ◆コスト縮減に配慮した施工

鋼橋上部工への耐候性鋼材の使用により約33百万円※のコスト縮減が期待される。より一層コスト縮減に努めながら、引き続き事業を推進する。

※耐候性鋼材(標準さび安定化处理)と普通鋼材+塗装を比較し検討年数を50年とした場合の値

## ◆代替案立案等の可能性

現在の計画で事業の進捗に問題がないため、代替案の検討は行わない。

## ◆事業完了後の良好な公共サービス提供

供用開始時に、道路を利用される方々が安全で快適に利用していただけるよう、引き続き関係機関協議等を着実に実施する。

# 6. 対応方針(案)

## 1. 事業の必要性等に関する視点

- 第二阪奈有料道路へのアクセス向上と南北方向の交通混雑の緩和および円滑かつ安定した交通を確保。
- 現道および生活道路の交通安全性の向上が期待される。
- 地域の活性化が期待される。
- 救急救命活動を支援する道路である。
- 費用便益費(B/C)は事業全体で2.2、残事業で3.4。

## 2. 事業進捗の見込みの視点

- 現在、用地買収を実施中。事業進捗について大きな問題はない。
- 引き続き事業を推進し、平成30年代半ばの事業完了を目指す。

一般国道168号小平尾バイパスは、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。  
引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指すことが適切である。

**事業継続**